

## 《製品の概要》

グリップを再利用したい場合に、グリップに針を刺すことなく、安全にグリップを抜き取ることが出来るスティックです。高強度のばね鋼を採用することで、適度な柔らかさを持ったスティック部が、グリップとテープの隙間に効果的に入り込み、確実にグリップをテープから剥がすことが出来ます。また、スティックには鋭利な部分がないため、シャフトを傷付けにくいのも特徴です。

## 《※※使用上の注意※※》

- ご使用の際には、グリップ溶液が必要です。溶液は、より無駄の少ないスプレー(エアゾール)式のご利用を推奨致します。特にノズル付のタイプが本品での作業には適しています。
- グリップ素材の劣化が著しい場合や、グリップ開口部周辺に亀裂が入っている場合、スティック挿入によりグリップが裂けることがあり、グリップの再利用は困難です。グリップ自体の性能も低下していることが予想されるため、新品への交換をご検討下さい。
- グリップ素材に十分な弾力性が無い場合等、スティック部が挿入できないグリップでは、抜き取りはできません。
- シャフトの傷付防止には、グリップ開口端から20cm程度の箇所までをマスキングテープ等で保護されることを推奨致します。

## 《製品構成/各部の名称》



## 《作業方法》

- (1) シャフトクランプや万力、グリップピン・ステーション等を使用して、シャフトを固定して下さい。この時、作業のためにグリップ開口部から、本品の全長(約15インチ)以上、離れた箇所でクランプして下さい。また、クランプ箇所からグリップ開口部までの周辺に障害物が無いよう、万力の向き等を調整して下さい。必要に応じ、マスキングテープ等でシャフトを保護して下さい。
- (2) グリップ開口部の先端をめくり上げてスティック部を挿し易くします。これにより、グリップ先端部も裂けにくくなります。(スティックを差し込んだ後、作業中に元に戻ることがありますが、そのまま作業を続けて頂いて問題ありません)
- (3) グリップ溶液をスティック部先端側につけて、開口部から挿し込みます。少なくとも、グリップ長さの半分程度までは、差し込んで下さい。入りにくい場合は、グリップ溶液を増やして下さい。
- (4) スティックをグリップ内で回転させ、グリップとテープを剥がしていきます。回転させながら、より深くスティック部を挿していきませんが、グリップエンドから、1~1.5インチの部分までにして下さい。
- (5) グリップ全周に渡って、グリップがテープから剥がれたら、リムーバースティックをシャフトの周方向各位置で少しずつ押し込みながらグリップエンド付近も剥がし、グリップをシャフトから引き抜いて下さい。



## 関連用品

GV0691: グリップ交換液180ml(ノズル付スプレー)、LG398: グリップ交換溶液エアゾール480ml、  
LG03: グリップ交換溶液エアゾール 100ml